

2019年7月6日

学校法人三幸学園  
広島医療秘書こども専門学校  
校長 三川 和輝 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 片岡 陳矢

### 学校関係者評価委員会実施報告

2018年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

#### 記

##### 1 学校関係者評価委員

- ① 前原みゆき (医療法人ハートフル アマノリハビリテーション病院 医事課長)
- ② 恩田ほのか (平成29年度卒業生)
- ③ 片岡陳矢 (飛鳥未来高等学校 教務主任)

##### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

2019年7月4日(会場 広島医療秘書こども専門学校 302教室)

##### 3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2018年度 学校法人 三幸学園 広島医療秘書こども専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 飯島 英和

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 片岡 陳矢

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ①前年度重点施策振り返り

#### 〈重点施策〉

#### \* 指導の「徹底」

- ・教員間での指導認識、指導方法のズレを生じさせない。
- ・情報量の差、情報伝達スピードの差による学生へ不信感を生まないようにクラスノートを活用する。

目的：タイムリーな情報の共有による指導ポイントの共通認識醸成。

課題：授業によって記入のタイミングにズレが生じている。

#### \* 検定合格率の改善

- \* 実習単位不良者を出さないための事前(事後)指導の強化。
- \* 学生から社会人へ、あるべき社会性・人間性・社会人基礎力の醸成。

#### 〈振り返り〉

- \* 精皆勤率などの数値結果は前年を若干上回ったが、依然低い水準となった。
- \* 学校の指導方針や目標について学生が十分に理解されていたとはいえ、態度・マナーにおいて問題のある学生が散見した。
- \* 関連資格の合格率を向上させることができず(一部向上したが)、養成校平均を下回るものが多い結果となった。
- \* クラスノートについては、記載漏れや確認漏れが散見し、本来の目的を果たすことができていない。
- \* 教員に対する信頼度が低く、目指す教育の実践には到達できていない。
  - ・年度途中での担任の交代、退職等により学生から教員・学校への不信感を招くこととなった。

## ②学校関係者評価委員会コメント

前原委員：(出欠状況について現場は採用時にどの程度注目するか?という質問に対し)

出席状況について、年間何日といった細かいところまでは気にしないが、面接の中では実際に働いてからどうか?と見極めは質疑の中で行う。

恩田委員：

マナーや社会人としてという素養の部分については、個人個人で意識の差が大きくある。ただ、そういった状況はクラスでのまとまりや協調性の有無にも関係していると思う。

片岡委員：

貴校および姉妹校へ送り出した学生の進学後の状況から見ると、高校在学中に当たり前のことが当たり前にできないまま過ごし卒業してしまうと、専門学校進学後も、割と早い段階で学校に適応できず退学に繋がってしまう傾向にある。

前原委員

資格に関しては、取得できたか否かだけでなく、勉強し続ける姿勢は持っていてほしい。資格を取得してもわからない、では現場は困る。働いてからも常に新しい知識や情報をインプットするよう勉強し続ける姿勢がとても大事。また業界の全体像を把握するとともに就業先の病院によって必要な知識は異なるので、そこに合ったものを特に習熟する姿勢が大切。最近では、指導されても、指導を受けたその作業のみで完結してしまい、なぜそうなのか?といった仕組みまで考えることができない新人もいる。仕事はパターンを覚えるのではなく、仕組みを覚える(考える)ことで本質にたどり着くことができる。また、違う見方では「専門学校を出ているのに資格を持っていないのはどうなのか?」という見方をされる可能性があることも留意いただきたい。

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）         | 評価 |
|--|----|
| 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）   | 4  |
| 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか                 | 4  |
| 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか    | 2  |
| 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 3  |

#### ①課題

学校としての理念や教育目的などの方向性は示しているが、理解浸透を深める為の定期的な発信に欠けているのではないかと。また保護者への周知の機会を十分に確保することが出来なかったのではないかと。

また、進級学年において学校の教育方針への理解を深めるのは困難であり、初年度からの理解・浸透が不可欠と考える。

#### ②今後の改善方策

教職員会議及び意見交換の機会を創り、学校の理念・目標とそれを実現するために手段についても周知徹底を図る。また、学生・保護者に対しても適宜方向性を伝え、理解を図るよう努める。

#### ③特記事項

なし

#### ④学校関係者評価委員会コメント

片岡委員：

現状は学生に問題行動等が露見した際に保護者連絡するということだが、問題行動のみを連絡するのではなく、日常的に情報交換をできるような連携ができる良いのではないかと。

## (2)学校運営

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）     | 評価 |
|--|----|
| 目的等に沿った運営方針が策定されているか                     | 4  |
| 事業計画に沿った運営方針が策定されているか                    | 3  |
| 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 3  |
| 人事、給与に関する制度は整備されているか                     | 4  |
| 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか           | 4  |
| 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか          | 3  |
| 教育活動に関する情報公開が適切になされているか                  | 3  |
| 情報システム化等による業務の効率化が図られているか                | 3  |

### ①課題

全国展開の学校法人の根幹となる運営方針、事業計画の策定、また人事労務制度等も充実している。また年々注目度の高まる財務状況や、コンプライアンス遵守に関することも、注意喚起の実施及び適切な運営が出来ている。

### ②今後の改善方策

労務の改善、および事務的な事故防止のために、より効率的で正確な業務処理を可能にするシステムの導入および、人員確保が必要である。業務の分散と見直しにより、教育効果を上げるための人員配置を検討していかなければならない。

### ③特記事項

なし

### ④学校関係者評価委員会コメント

前原委員：

経営（支出）の多くを占めるのは人件費であり、経営効率やコスト削減を考えるのであれば人をどうするか、と  
なってしまうが、単純に人員を削減すれば解決できるということではない。人でなければできないことや、人が  
多ければ良いというものでもない。

当院では、繁忙期（月初のレセプト期間）は、月間の労務計画を元に、その日の状況（患者数や職員配置な  
ど）によりその日の計画を立て、都度進捗を確認しながら残業時間を管理するようにしている。

恩田委員：

現在勤務の調剤薬局において残業はほとんどない。また前職の大学病院においても、残業は少なかった。業  
務分担が明確で、それぞれの持ち場で効率化された業務遂行がなされていたためだと思う。

### (3)教育活動

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）                                      | 評価 |
|---|----|
| 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか   | 3  |
| 目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4  |
| 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか   | 3  |
| キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか                        | 3  |
| 関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか                         | 3  |
| 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか                   | 4  |
| 授業評価の実施・評価体制はあるか  | 4  |
| 職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか   | 3  |
| 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか  | 4  |
| 資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか                                      | 3  |
| 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか                                 | 4  |
| 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか                | 2  |
| 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか                 | 3  |
| 職員の能力開発のための研修等が行われているか  | 3  |

#### ①課題

関連分野の実情を踏まえた新しい知識・技能等を修得するための教員確保と、教員の自己研鑽となるべき研修を体系的に実施していくことが必要である。教育課程の編成については、2019年度より大幅な改定があるが、より実践的で職業イメージを持たせる内容になる予定である。それだけに現場との連携、現場経験者(又は現役の方)の採用を行うことが求められる。学校として現場の情報収集および教員間での情報交換が不十分である。

#### ②今後の改善方策

現場関係者を招聘して関連分野において最新の情報収集するための研修を定期的実施する。また、新たに現場経験のある教員を採用・配置し、現場のリアル感を伝える授業展開を目指す。学びと職業が連動することを理想とし、新教育課程の運用を軌道に乗せたい。そして、各教員(特に現場の仕事に就いているもの)から、学内での情報収集・情報共有の機会も創出していきたい。

#### ③特記事項

なし。

#### ④学校関係者評価委員会コメント

前原委員：

実習生を見ると、医療事務員として基礎中の基礎である保険種別や公費などの知識が不足している。入職してから覚えるのも良いが、わかったうえで現場に出るとより早く適応できるのではないか。

例として、特定疾患の患者に対する記載方法など、実務レベルの具体的な内容まで(詳細というよりも制度の概要までで良い)理解したうえで実習先に来られるよう指導されるとなお良い。

#### (4)学修成果

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）  | 評価 |
|---------------------------------------|----|
| 就職率の向上が図られているか                        | 4  |
| 資格(免許)取得率の向上が図られているか                  | 2  |
| 退学率の低減が図られているか                        | 3  |
| 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか            | 2  |
| 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 2  |

##### ①課題

卒業後もキャリア形成の支援をするための繋がりを確保するための WEB システム(SNS)が稼働し始めたがシステム完成時期の問題で卒業生への周知ができていない。今後、在学中から卒業後まで一元で繋がりを継続できるこの WEB システムを活用し、卒業生の活躍を評価するとともに、在校生・学校と連携をしていくための体制・システムを構築することが必要である。

##### ②今後の改善方策

在校生への周知と当該システムへの登録を実行し、卒後サポート体制が構築されていることを積極的に発信する。また現場で活躍する卒業生を介して情報発信と卒業生の参加を増やす活動を実行する。

##### ③特記事項

なし

##### ④学校関係者評価委員会コメント

恩田委員：

卒業後の学校からの連絡は皆無という認識。個人的なつながりがなければ(特に用件がなければ)学校と繋がりを継続することはないのが現状。

学校説明会や、後輩への講演(現場での体験談)など、機会があれば協力する卒業生はそれなりにいるのではないかと。

## (5) 学生支援

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）    | 評価 |
|---|----|
| 進路・就職に関する支援体制は整備されているか                  | 3  |
| 学生相談に関する体制は整備されているか                     | 2  |
| 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか               | 3  |
| 学生の健康管理を担う組織体制はあるか                      | 3  |
| 課外活動に対する支援体制は整備されているか                   | 3  |
| 学生の生活環境への支援は行われているか                     | 3  |
| 保護者と適切に連携しているか                          | 3  |
| 卒業生への支援体制はあるか                           | 2  |
| 中途退学者への支援体制はあるか                         | 2  |
| 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか               | 2  |
| 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 1  |

### ①課題

保護者との連携については、入学前（＝進路決定にあたり）説明会、入学時（学校生活を始めるにあたり）説明会、入学後はクラス担任からの適宜連絡、学校からの定期的な刊行物による情報提供、という体制を取っているが、保護者のニーズに沿っているかどうかは定かではない。

卒業後の支援については、リクエストがあれば惜しみなくフォローアップする体制はあるが、連絡待ちの姿勢であり、相談等がなければ難しい現状である。再就職先、進学時の書類作成など要望には応えている。また、社会人の学び直し先としては、まだまだ環境が整っていない。

### ②今後の改善方策

保護者との連携は、支援が必要な学生にとっては重要であり、入学時に連絡手段等を詳細に把握していく必要がある。また、保護者が知りたい情報をタイムリーに発信するための仕組み作りも検討したい。

社会人の学び直しを支援するためには、多様な学び方を選択できるシステムを学園として検討する必要がある。（科目履修生、ターム制による単位取得を可能にする、など今後検討の余地あり）

### ③特記事項

なし

### ④学校関係者評価委員会コメント

片岡委員：

（所属している）高校では、保護者が担任と話したいというニーズが非常に強いため、今後はクラス会や個々に懇談の機会を設けることなども検討している。

前原委員：

保護者が学校に何を求めているのかニーズを把握するためのアンケートなど実施されてはどうか？

## (6)教育環境

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）       | 評価 |
|--|----|
| 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか           | 3  |
| 学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 3  |
| 防災・安全管理に対する体制は整備されているか                     | 3  |

### ①課題

教育環境は整っており問題ない。

### ②今後の改善方策

なし

### ③特記事項

なし

### ④学校関係者評価委員会コメント

特になし。

## (7)学生の受入れ募集

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 学生募集活動は、適正に行われているか                   | 4  |
| 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか          | 4  |
| 入学選考は、適性に行われているか                     | 4  |
| 学納金は妥当なものとなっているか                     | 4  |

### ①課題

今後、本校入学希望のほとんどを占める18才人口が減少していく中で、学校の存続、および業界への安定した人材共有を継続していくための方策を検討していく必要がある。

### ②今後の改善方策

学生募集を担う他部署(広報室、広報部)とも連携し、適切な学生募集を行っていく。

### ③特記事項

なし

### ④学校関係者評価委員会コメント

特になし。

## (8)財務

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか             | 4  |
| 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか             | 4  |
| 財務について会計監査が適正に行われているか                | 4  |
| 財務情報公開の体制整備はできているか                   | 4  |

### ①課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

### ②今後の改善方法

#### 【中期計画】

一 2019 年度に中期計画の策定会議を予定している。策定後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

#### 【財務情報の公開】

なし

### ③特記事項

なし

### ④学校関係者評価委員コメント

なし

## (9)法令等の遵守

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1） | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか      | 4  |
| 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか           | 4  |
| 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか                | 4  |
| 自己評価結果を公開しているか                       | 4  |

### ①課題

特になし

### ②今後の改善方策

特になし

### ③特記事項

特になし

### ④学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (10)社会貢献・地域貢献

| 【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）        | 評価 |
|---|----|
| 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか             | 3  |
| 生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか                      | 3  |
| 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか | 2  |

### ①課題

教育活動の一つとして入学年度に保育現場へのボランティア活動を積極的に推奨（単位換算可能）しており、翌年度からの実習に向け、まずは現場理解を目的に事前指導のうえで実施している。また月に2回程度、土日に子育て支援教室を開催し、地域に開かれた機会の提供と学びを連携させる仕組みづくりを目指している。今後は地域へ向けた公開講座等の開校も検討していきたい。

### ②今後の改善方策

学校という教育環境を活かし、また教員の持っている経験・知識を地域や関係団体と連携し還元していく。

### ③特記事項

なし

### ④学校関係者評価委員会コメント

前原委員：

当法人では関連施設含め、地域の方、患者様、ご家族向けの夏まつり実施や、コンサートなどを開催している。

#### (11)国際交流(必要に応じて)

| 【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1) | 評価 |
|--------------------------------------|----|
| 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか      | 2  |
| 受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか      | 4  |
| 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか              | 2  |
| 学内で適切な体制が整備されているか                    | 2  |

##### ①課題

現状、分野特性として国際交流を進めるという観点を持っていない。

##### ②今後の改善方策

検討していく。

##### ③特記事項

なし

##### ④学校関係者評価委員会コメント

特になし

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本評価および各委員からのご意見等も踏まえると、現在の本校の課題は「教育方針・理念」の浸透、基礎教育の充実、卒業後支援の強化、と考える。教育方針・理念の浸透が学生および保護者になされることで、学校生活のみならず社会性・モラル・マナーを認知した社会人を育成することができると思う。そのためには初年度教育と保護者連携がポイントとなる。また、基礎教育の充実の点では、知っているても使えない、そもそも知らない、習っているのに忘れている、という様々なケースがあるため、現場のニーズを今一度正確に把握し、そこに見合う教育課程または授業計画シラバスを検討する必要がある。ただ、習っているのに忘れているという学生は、教員側の努力で減らしたい。卒業後支援については、現状ではまだ対策がなされていない傾向にあり、卒業生のキャリア支援の視点、後輩(在校生)への指導、影響の視点、また現場と学校の繋がりの強化という視点、それぞれに目的を持って支援と繋がりの体制を構築する必要がある。これまで、内部統制に運営上目を向けがちであったが、外部(業界、地域、社会全体)へと視野を広げ自己満足に陥らないような適切な学校運営を目指すことを再度認識することができた。